

# 大谷学会 研究発表会

2023年

日時

10月18日 水

14:40~17:50 (開場14:10)

入場無料

事前申込不要  
一般来聴歓迎

会場

大谷大学メディアホール (響流館3階)

〒603-8143京都市北区小山上総町 (地下鉄北大路駅6番出口すぐ)

※開催が縮小ないし中止となる場合がありますので、ご来聴前に大谷大学ホームページ等での確認をお願いいたします

※駐車場・駐輪場はありませんので、公共交通機関のご利用をお願いいたします

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入場に際しては大谷大学が定めるルールの厳守をお願いいたします

※座席数 (75) に達した場合は、ご入場を制限することがあります

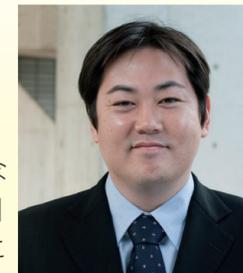


14:50~

## 阿含から見る二河白道の譬喩

上野 牧生氏 大谷大学准教授【仏教学】

善導『観無量寿経疏』における二河譬の典拠について「義は観経に依り、文は他経によるなり」とする先学の見識があります。本発表では、その「他経」を阿含經典『毒蛇経』『灰河経』に見定めて二河譬を解釈し、とくに『灰河経』を介して浮かび上がる世親と善導との接点に着目します。



15:30~

## 「京都お伽倶楽部」の時代にみる子どもの文化

川北 典子氏 大谷大学教授【児童文化学/保育学】

「お伽倶楽部」は、明治期の終わりに創設された口演童話を中心とする児童文化運動の組織ですが、京都でも「京都お伽倶楽部」が結成されました。当時の学校教育や子どもの生活、伝統文化をも巻き込んだ多彩な活動について明らかにします。



16:20~

## 大行・称名・正定業 一親鸞の思想における実践をめぐって

小川 直人氏 大谷大学講師【真宗学/親鸞の思想/中国浄土教】

親鸞は、称名を表現する際に大行と正定業という二つの言葉を用います。本発表では、親鸞がこれら二つの言葉を通して称名を確認する背景に、如来のはたらきと行者の行為との関係が見据えられていることを考察したいと思います。



17:00~

## 『臘扇記』における清沢満之の課題 一自在なる自己一

西本 祐攝氏 大谷大学准教授【真宗学】

清沢満之 (1863-1903) は日記『臘扇記』に、「自己とは何ぞや 是人世の根本的問題なり」という問いを提示します。この問いは「自在」「自由」ということを課題として思索されています。本発表では清沢満之の語る「自在なる自己」について尋ねます。



お問合せ先 大谷学会 E-mail: o-gakkai@otani.ac.jp